



イルカ通信

隔月 1 回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

2012年8月1日 NO.49

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

「硫黄列島のイルカ」

皆さん、こんにちは。先日、硫黄三島クルーズの解説スタッフとして、硫黄列島まで行ってきました。クルーズの目玉はアカオネツタイチョウやシロアジサシなどといった海鳥ですが、今回はクルーズで出会ったイルカのお話。

小笠原周辺では、これまでに約20種の鯨類が確認されています。しかし、硫黄列島周辺に生息している鯨類については情報が乏しいため、良く分かっていません。そこで硫黄列島周辺の鯨類の情報を蓄積するため、クルーズ中に目視調査を実施しました。硫黄列島はなかなか行けない海域ですからね。昨年はコブハクジラという珍しい鯨類を発見しましたが、今年はどんな発見があったのでしょうか。



コブハクジラ

調査では南硫黄島から北硫黄島までの航路上で、見つけた鯨類の種類や時間、頭数などを記録していきます。今回の調査で発見した鯨類は7群でしたが、種まで同定できたのは1群のみ。それは調査も終盤にさしかかった北硫黄島での出来事でした。島の南西で何かがジャンプしているのが見えたのです。良く見てみると、それは島でも見られるハシナギイルカ4頭。クルーズに参加した他の方も見えたようで、周りから大きな歓声があがっていました。

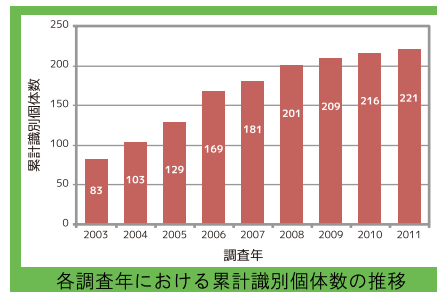


今回のクルーズで見られたハシナギイルカ

以前からこの場所でのイルカの見撃情報は漁師の方などから頂いていましたが、種の判定までは至っておらず… 今回の調査で種まで特定できたのは、大きな収穫でした。200キロ近く離れた北硫黄島で発見したハシナギイルカですが、まだまだ謎がいっぱいです。皆さんも来年は硫黄列島へ行ってみませんか？

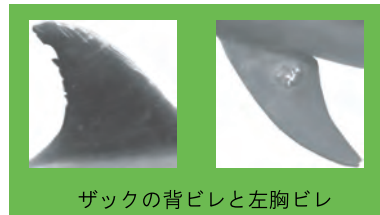
「ザックの出産歴」

OWAのイルカ調査隊では、ミナミハンドウイルカを対象に個体識別調査を行っています。調査開始時における識別頭数は83頭でしたが、2011年末までに累計で221頭ものイルカが識別されています。



各調査年における累計識別個体数の推移

その中でも何頭か名物イルカがいますが、今回は「ザック (個体識別番号#9)」の愛称で知られているメスイルカについてのご紹介です。ザックは背ビレの欠損と左胸ビレの上にある白斑が特徴で、イルカ調査隊が結成される前の2002年から確認されています。



ザックの背ビレと左胸ビレ

少なくともこれまでに4回の出産を経験しており、最近では2010年に出産した子供(#276)と一緒に泳いでいるところを見かけます。



親子で泳ぐザック (上) とザックの子供 (下) ※2012年7月撮影

今では母親と同じくらいのサイズになり、すくすくと成長していることが分かります。海外などの研究では、子供は3歳から5歳くらいまで母乳を飲み、離乳することが報告されていますが、中には7歳以上になっても親離れしない個体もいるようです。ザックの前回の出産は2006年6月頃。そのとき生まれた子供(#232)は、3年ほど一緒に過ごし、親離れしたことまで確認されています。#276も来年あたり親離れでしょうか？小笠原では「モッチーニ」というザトウクジラがベテランの母クジラとして有名ですが、ザックも負けていませんね。

